

鎮痛と鎮静、  
尊厳死と安楽死の違い

それぞれの「あいだ」を議論しよう

医学博士 長尾和宏

長尾和宏  
(ながおかずひろ)医療法人社団裕和会理事長、  
長尾クリニック院長1984年 東京医科大学卒業、大阪大学  
第二内科入局

1991年 医学博士（大阪大学）授与

1995年 兵庫県尼崎市で長尾クリニッ  
クを開業、現在に至る日本慢性期医療協会理事、日本ホスピス  
在宅ケア研究会理事、日本尊厳死協会副  
理事長、全国在宅療養支援診療所連絡会  
世話人、関西国際大学客員教授

【医学博士】

日本消化器病学会専門医、日本消化器内  
視鏡学会専門医、指導医、日本在宅医学  
学会専門医、日本禁煙学会専門医、日本  
内科学会認定医、労働衛生コンサルタント

【著書】

『平穏死・10の条件』（ブックマン社）、『抗  
がん剤・10のやめどき』『糖尿病と膵臓  
がん』（ブックマン社）『胃ろうという選  
択、しない選択』（セブン&アイ出版）『が  
んの花道』（小学館）『抗がん剤が効く人、  
効かない人』（PHP 研究所）『大病院信仰、  
どこまで続けますか』（主婦の友社）な  
ど。【医学書】スーパー総合医叢書・全  
10巻の総編集（中山書店）など多数。

## 鎮痛と鎮静の区別

鎮痛剤という言葉がある。理屈はともかく誰だって「痛い」のは嫌だ。とりあえず痛み止めを使って痛みを止めたい。特にがんに伴う痛みは激烈な場合もあり、やせ我慢は禁物だ。いわゆる痛み止めにはロキソニンのように薬局で買えるものもある。しかし胃潰瘍などの副作用もあるので薬剤師さんの説明をよく聞いたうえで使うべきだ。セロコックスのように固い神経痛の受診が必要だ。さらに薬を併用する場合がある。がん性疼痛に対しては医療用麻薬も処方されるが、外来や在宅でも病院やホスピスと同様に使えることを知っておきたい。さらにがんだけでなく3ヶ月以上痛みが続く場合は「慢性疼痛」と診断されて医療用麻薬の処方許可されていることも知っておきたい。いまや緩和ケアはがんも非がんも問わない。しかし緩和ケアの医学教育や卒後教育がまだに遅れているという致命的な課題も残されている。さて、鎮静とは麻酔薬のような薬剤

を用いて強制的に眠らせることだ。

ただし、浅い鎮静から深い鎮静まで相当な幅がある。安定剤や睡眠薬で痛みを紛らわす場合があるが、これは浅い鎮静である。一方、完全に眠らせる薬剤もある。眠って行う胃カメラや大腸カメラにはドルミカムという鎮静剤が広く使われている。末期がんの人も夜にしっかり眠ってもらうために、皮下注射や点滴で一時的にそんな鎮静剤が使われることがある。死ぬまで続けられる場合、終末期における深い持続的鎮静と呼ばれる。これまで問題にされてきたのは終末期の深い持続的鎮静のことである。このように鎮痛と鎮静は一応分けて考えたほうがいい。ただし鎮痛剤で眠気が来る場合がある。あるいは鎮静剤が痛みにも多少の効果がある場合がある。つまり厳格な区分ができないケースもある。

## 尊厳死と安楽死の違い

尊厳死とは平穏死、自然死のことだ。終末期以降に延命治療を控えて緩和ケアは充分に受けた最期のことを言う。ただし医療の発達とともにどこからが終末期なのかハッキリ

る可能性が高い。安楽死とは「医者」がまだ余命が数ヶ月以上ある患者さんに対して「本人の意思」を尊重して「薬剤」を用いて人為的に命を縮める行為である。

それぞれの「あいだ」  
の議論を！

以上、基本的なことをわざわざ述べた理由は、鎮痛と鎮静や尊厳死と安楽死を混同している場合が多いからだ。一般市民はもちろんだが、有識者と称される方も、あるいは有名なお医者さんですら両者を混同して使っている場面を散見する。数年

前、29歳の脳腫瘍のアメリカ人女性が自分の予告どおり誕生日に自殺薬を飲んで安楽死したが、NHKはじめほとんどのメディアは「尊厳死」と誤報した。そして誤報しても訂正記事すら出ないのがこうした領域の報道でよく見られる。直近では終末期における透視中止、つまり尊厳死をあたかも「殺人」のように煽った新聞記事を思い浮かべて欲しい。記者や編集者やプロデューサーが、そして時には監修している医師さえも正しい知識が無いことがある。そんな状況のなか、「安楽死に賛成か反対か」とか「鎮静に賛成か反対か」というテーマについてアンケート調

査が行なわれる。有識者と呼ばれる方も大半が誤解して理解して意見を述べるものだから議論はますます混乱する。私たちは法治国家に生きている。それは言語によって規定される社会である。しかし言葉の定義も曖昧なまま勝手なイメージだけで議論しても不毛である。終末期医療を扱った映画やテレビでも制作側全員が誤解している場合もある。

しかしこうした言葉はある程度幅を持っていることも知っておきたい。安楽死に消極的と積極的があるように、鎮静にも浅い深いがあるように、こちらかあちらではなく、両者の間には相当なりの代があること

しなくなってきたことを知っておく必要がある。終末期とは漠然と死期が迫った状態であるが明確に定義できない。がんの在宅看取りはたいてい尊厳死である。私は1200例以上の尊厳死を看取ってきた1度も逮捕されていないという事実から、日本において尊厳死は法律が存在しないが、社会的にはほぼ容認されていると考えてもいいだろう。

一方、安楽死とは医師が薬剤を用いて患者さんの命を縮めるという行為である。安楽死も2つある。医者が薬を患者に渡して先に飲んでもらう方法と、医者が直接注射を打って患者さんを殺す方法だ。先日NHKで神経難病のためスイスのライフサークルという安楽死組織に渡り安楽死を遂げた女性は文字どおり安楽死であった。彼女はまだ相当な余命があったと推測される。もし今にも亡くなりそうであつたら尊厳死と呼ばれたかもしれない。言葉を変えれば寿命を縮めたなら安楽死で縮めていなければ尊厳死という呼び名になる。また川崎協同病院事件を振り返って分かるように、国内で安楽死が行われた場合、殺人罪に問われ

も知っていないといけない。両者の「あいだ」があるという前提にたち、どこまでがOKで、どこからがグレーゾーンで、どこからが罪に問われる可能性があることを議論しないと意味がない。そんな想いで8月31日に神戸市で「尊厳死と安楽死のあいだ」というイベントを開催したところ大盛況だった。なかでも熱心に交わされた終末期の鎮静を巡る議論は書籍になる予定である。このような答えが無い生命倫理に関する議論が中高生や医学生や看護学生の教材となつて欲しい。



# 月刊

世界の視点で情報を発信する総合誌

# 公論



発行・株式会社財界通信社 令和元年10月1日発行 毎月1回1日発行 第52巻10号  
昭和47年11月10日第三種郵便物認可

# 10

2019  
October

提言

国会における活発な議論で  
安倍内閣の総括・総決算をせよ  
政権のチェックを行うのは野党の責任

本誌主幹 **大中吉一**

リレー  
対談

金沢21世美術館副館長  
金沢市民芸術村総合ディレクター

広告代理店  
コピーライター・写真家

**黒澤 伸氏** VS **日下慶太氏**

迷子のコピーライターが  
生み出した新世界のポスター展  
数十年続くお店の歴史が一枚のポスターになる時



近代日本の天海坊か？

明治・大正・昭和、日本の行方を影で舵取りした  
見えざる大物 矢次一夫伝①

「百乃会」夏季セミナーにおける講演

「オリンピックを契機に  
国土強靱化で首都の魅力を発揮せよ」

自由民主党 **二階俊博** 幹事長